



地震あんしんカルテ

我が家に設置した地震計からデータを収集・解析し、地震が発生した後の建物の健全性を評価します。

【地震発生時刻】2018年7月7日 20時23分頃 【震源地】千葉県東方沖 【マグニチュード】6.0 (深さ66km)

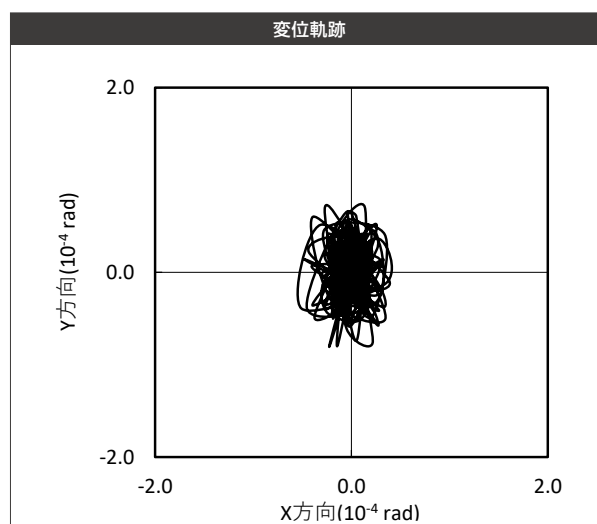
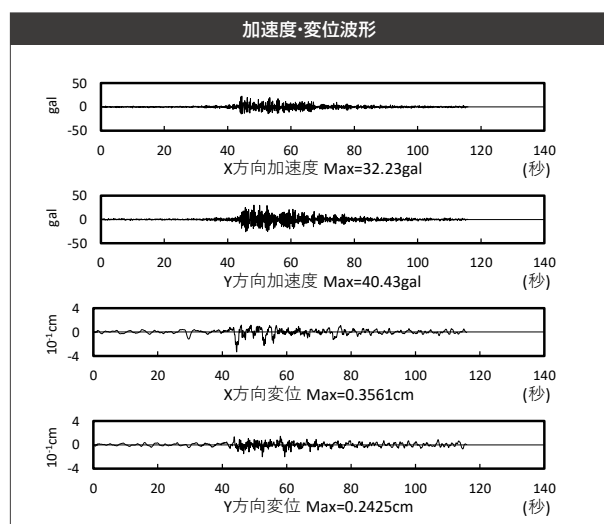
観測地点 東京都千代田区 設置建物 コンクリート造(RC/SRC) 5階 / 6階建て

建物健全性評価: **健全** 震度: **3** 計測震度: **3.4**

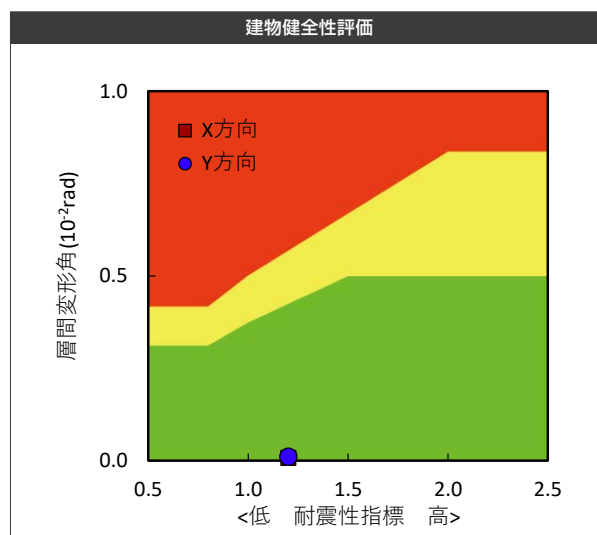
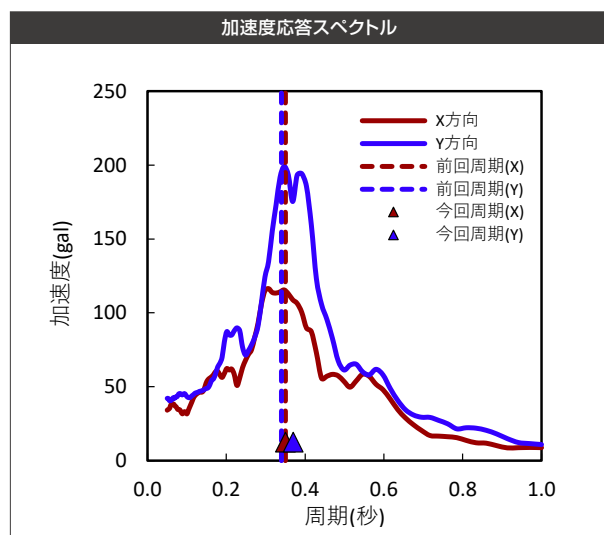
観測値から推定される固有周期は両方向とも約0.35秒です。同規模の建物相当値で、層間変形角も小さいことから健全と判定されます。

※建物健全性評価は、計測したデータを基に独自で算出したものであり、建物の健全性の目安を示すものです。当カルテをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、一切責任を負いません。

1 計測結果 計測したデータから建物の揺れの大きさや軌跡がわかります。



2 解析結果 解析結果から建物の健全性がわかります。



3 地震ハザードカルテ 将来想定される地震の震度や地盤の揺れやすさなど、地震による危険度がわかります。

30年地震ハザード

今後30年間に震度6弱の揺れに見舞われる確率
72.8%【ランク:E 高め】

表層地盤増幅率

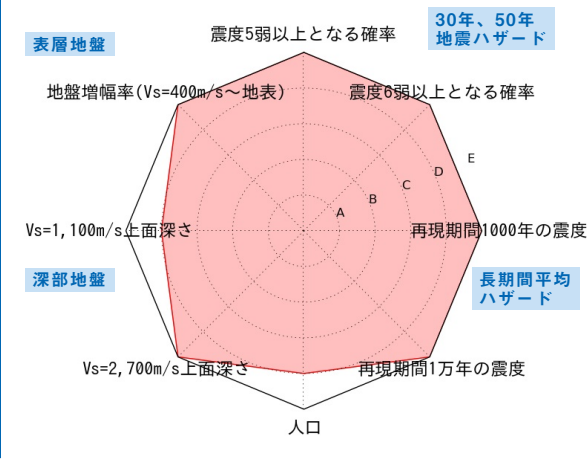
地表面近くに堆積した地層の地震時の揺れやすさ
2.02【ランク:E 高め】



地震ハザードカルテ 2018年版

メッシュコード	中心緯度、経度	住所	標高	メッシュ内人口
観測地点記載の通り			8m	500~550人

総合評価

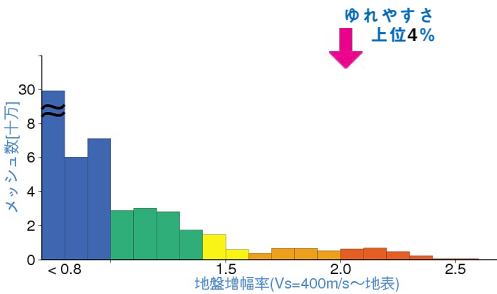


30年、50年地震ハザード

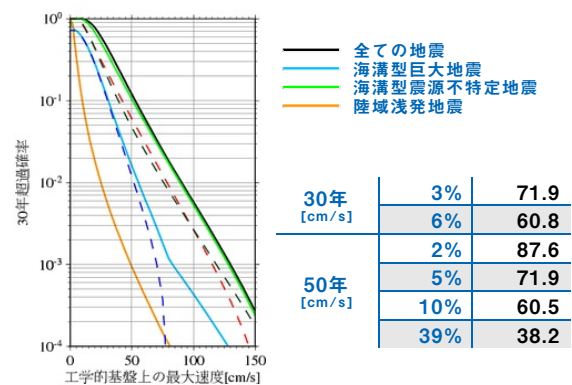
超過確率の値[%]	30年	震度5弱	100.0
		震度5強	98.5
今後30年間にある震度以上の揺れに見舞われる確率の値です。	30年	震度6弱	72.8
	30年	震度6強	20.5
震度の値	30年	3%	6強
	30年	6%	6強
今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる震度の値です。	50年	2%	7
	50年	5%	6強
地表面の最大速度の値[cm/s]	50年	10%	6弱
	30年	3%	145.4
今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる地表面の最大速度の値です。	30年	6%	122.9
	50年	2%	177.1
	50年	5%	145.5
	50年	10%	122.3
	50年	39%	77.2

表層地盤

地盤増幅率 (Vs=400m/s~地表)	2.02
微地形区分	谷底低地
30年平均S波速度	175m/s

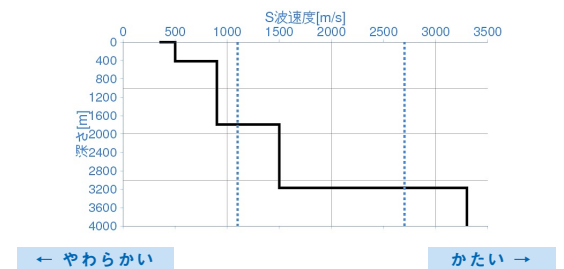


ハザードカーブと影響地震カテゴリー



深部地盤

Vs=1,100m/s上面の深さ	1,794m
Vs=2,700m/s上面の深さ	3,171m



No.	地震名	震度6弱以上の影響度[%]
1	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震	37.4
2	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震	36.0
3	南海トラフの地震	22.7

長期平均ハザード

震度の値	500年相当	6強
長期の再現期間に対応する震度の値です。	1000年相当	6強
	5000年相当	7
	1万年相当	7
	5万年相当	7
	10万年相当	7